

目次	1-2	特別展「絵葉書の中の広島～閉じ込められた街の面影～」
	3	企画展『『ごんぎつね』が語る昔の暮らし』
	3-4	企画展「陸軍の三廠～宇品線沿線の軍需施設～」
	5	イベント「駄菓子作り広場」
		新刊紹介
	6	教室事業日程一覧
		その他の事業・館外活動一覧
	7	寄贈資料
		平成25年度を振り返って
	8	平成26年度展示紹介

## 特別展

### 「絵葉書の中の広島～閉じ込められた街の面影～」

会期：2013年10月26日（土）～2014年1月19日（日）



写真①

絵葉書「広島新天地」 大正10年ごろ

現在も文具売り場などにいくと、写真・イラストなど様々な絵葉書が販売されており、私たちの目を楽しませてくれています。eメールやソーシャルネットワーキングサービスなどの発達により、はがきを利用する人は減少していますが、いまなお絵葉書は根強い人気があるようです。絵葉書のルーツは明治33年(1900)にまで遡ることができます。これより以前にも官製はがきは発行されていたのですが、同年の郵便法の改正によって私製はがきの発行が可能になり、絵葉書も作ることができるようになったのです。最初にブームになったのは日露戦争の戦勝ムードにわく明治39年(1906)に発行された「日露戦争記念官製絵葉書」でした。戦地で従軍記者が撮影した写真を使って製作したものでしたが、当時はまだマスメディアも発達しておらず、兵士たちの様子をリアルに知る事ができるのがウケたのでしょう。そして、このブームをきっかけにして多くの絵葉書が日本中で発行されるようになったのです。単なる「はがき」としてだけではなく、さまざまな事を伝えるメディアとしても重宝されたため、風景や名所、有名人の絵葉書だけでなく、軍隊の様子や事件や事故を伝えるものなど現在では考えられないようなものも発行されました。

(2ページ目につづく)

このたびの特別展では、戦前の広島のまちの様子を知ることができる絵葉書を選んで展示しました。特に珍しいと思われるものをここで紹介しましょう。

前項の写真①は大正時代に発行された新天地の様子をとらえた絵葉書です。盛り場として新天地が開かれたのは大正10年(1921)のこと。たちまち芝居や映画などの興行の中心地となり、その華やかさから数多くの絵葉書が発行されました。写真の場所は現在でいうと広島パルコ(広島市中区本通)前を東西に延びる道にあたり、東から西に向かって撮影しています。多くの人が行き交い、「祝 新天地開場」という小旗がはためいていることから、新天地が開場した当初の様子だと思われます。



写真② 絵葉書「広島電車紙屋町停留場」 大正初期



写真③ 絵葉書「重砲兵生活 廿四冊加農砲操法」 明治末期～大正前期

場所は現在の学校と同じ(南区楠那町)で、生徒たちの背景には黄金山南麓が写っていますが、斜面には段々畑が造られているようです。校庭では先生と生徒が体操をしています。壇上の先生は洋装ですが、他の先生や生徒たちはみな和服です。このように学校の様子をつたえる絵葉書も数多く発行されていますが、創立記念のものが多いようです。

このように、絵葉書は街の歴史をリアルに伝えてくれる貴重な歴史資料です。あなたの手元にも貴重な資料が眠っていませんか? もし気になる絵葉書があったら是非ご一報ください。街の歴史を紐解くカギになるかもしれません。

(本田 美和子)

写真②は大正初期の紙屋町交差点の様子を伝える絵葉書です。大正元年(1912)に路面電車が開通した直後に撮影されたものと思われ、花電車が走っています。交差点の北側(画面右手)は空き地のように見えますが、第五師団の駐屯地内であり、ここには西練兵場がありました。したがって当時の紙屋町交差点は十字路ではなく、T字路になっていました。この時点ではまだ周辺は寂しい感じですが、電車の開通の影響でやがて広島市を代表する繁華街へと変貌していくことになります。

写真③はキャノン砲の訓練をする砲兵の様子をとらえたもので、時代は明治末期から大正初期頃、場所は比治山であると思われます。明治31年(1898)から大正11年(1922)にかけて、比治山南麓(現在の広島県立広島産業会館付近)には重砲兵の部隊が駐屯していました。その部隊の訓練風景で、軍都と言われた広島を彷彿とさせる一枚です。この他にも市内に駐屯していた軍隊に関する絵葉書は数多く発行されています。

写真④は現在の市立楠那小学校の前身、仁保第二尋常小学校の様子で、撮影されたのは明治末期から大正初期にかけてです。



写真④ 絵葉書「仁保第二尋常小学校 児童連合体操」 明治末期～大正前期



## 企画展

# 『ごんぎつね』が語る昔の暮らし

会期：2013年9月7日（土）～2013年12月23日（月・祝）

「ごんぎつね」は、小学校4年生の国語の教科書にも掲載されており、生誕百年を迎えた新美南吉の代表作として、現在でも多くの人々に親しまれています。

企画展『ごんぎつね』が語る昔の暮らしは、平成13年度に始まり、今では郷土資料館の秋の展示として、小学校を中心に定着してきました。この展示では、物語に登場する様々な場面を再現しながら、農村の人々の暮らしぶりを収蔵資料や写真を交えて紹介しており、展示期間中は社会科の学習の一環として多くの小学生が来館されました。展示されている道具について熱心にメモをとり、質問をする姿が見られ、『ごんぎつね』の物語の中に入り込んだようだといった声や、「はりきり綱ってこんなだったんだ」、「火縄銃が想像していたよりも長く重そうだった」といった声が聞かれました。また、大人の来館者からは、「懐かしい」といった感想もいただきました。



企画展『ごんぎつね』が語る昔の暮らし 展示風景

毎週日曜日の展示ガイドには、家族連れで来てくださる方も多く、親子で昔の暮らしについて学ばれているようでした。世代は違えど、多くの方の学習の場としてご活用いただいたことを嬉しく思います。

そのほか、関連事業として、「紙芝居『ごんぎつね』の朗読とモビール工作」（紙芝居講師：フリーアナウンサー 桂幾子氏）を実施し、多くの方にご参加いただきました。

「ごんぎつね」はフィクションの物語ですが、この展示を通して、物語としての「ごんぎつね」を味わうだけでなく、かつて確かに存在し、今も我々の生活に息づいている「昔の暮らし」をリアルなものとして感じていただけたのではないのでしょうか。今後も展示内容をさらに充実させ、ご来館いただいた方の良き学習の場、そして時には昔を懐かしむ場として活用していただけたらと思います。（若島 一則）



関連事業の様子

## 企画展

# 「陸軍の三廠～宇品線沿線の軍需施設～」

会期：2014年1月25日（土）～2014年3月23日（日）

戦前の広島は「軍都」と称されます。特に原子爆弾が投下される前の広島を説明する際に使用されることが多いようです。ただ、「軍都」を構成する施設がどのような役割を果たしていたかに触れられることは少ないのではないのでしょうか。

今回の企画展では、特に宇品線の沿線に設けられた宇品陸軍糧秣支廠・広島陸軍兵器支廠・広島陸軍被服支廠の三つの軍需施設を取り上げました。糧秣支廠に関しては、郷土資料館の建物の前身ということで以前から何度か企画展で取り上げていました。被服支廠についても、糧秣支廠と一緒に企画展で扱ったことがあります。しかし、兵器支廠も含めた三つの軍需廠を取り上げたのは今回が初めてとなります。

（4 ページ目につづく）



企画展「陸軍の三廠～宇品線沿線の軍需施設～」展示風景①

展示では、日清戦争を契機に宇品線が竣工し、宇品港が大陸への軍事輸送に貢献したことを導入としました。その後、宇品線沿線に設置された宇品陸軍糧秣支廠・広島陸軍被服支廠・広島陸軍兵器支廠の目的や業務内容を資料や写真を通して紹介しました。



企画展「陸軍の三廠～宇品線沿線の軍需施設～」展示風景②

大正 10 年 (1921) 8 月 8 日には、兵器支廠で填薬弾丸庫の爆発事故が起こり、周辺では大騒動になりました。昭和 20 年 (1945) 8 月 6 日の原子爆弾投下後には、倒壊や火災を免れたために臨時救護所となり、廠内で多くの方が亡くなっています。また、戦後、三廠の組織は解体されますが、建物は官公庁や学校、企業などに利用されています。こうした歩みを見ると、三廠は広島市や広島市民の歴史に大きく関わる存在であったといえるのではないのでしょうか。



展示ガイドの様子

今回の企画展には、戦時中、三廠に動員され働いておられた方も来場され、貴重なお話しを伺うことができました。また、糧秣支廠が買い上げた鳴門水飴など、三廠に関わる貴重な資料をご寄贈いただきました。この場をお借りして、お礼申し上げます。

(田村 規充)



## 文化の日イベント

# 「駄菓子作り広場」

開催日：2013年11月3日（日・祝）

広島市郷土資料館では毎年11月3日文化の日に館を無料開放しており、それに合わせて、昔懐かしい駄菓子を自分で作ってみよう！という「駄菓子作り広場」を実施しています。一銭洋食やカルメラ焼き、綿菓子、ラムネ菓子作り、型抜き、スーパーボールすくいなどのブースを出店、多くが無料で参加できるということで、例年6000人前後のお客さまに参加いただいています。毎年、文化の日は快晴続きだったのですが、今回は残念ながら朝から雨降り。外で実施予定だったブースでは急きょ、テントをはって対応しました。



あいにくの空模様でしたが、玄関ではこんなに行列が！！

灰色の空を見上げながら、「お客さんが集まるだろうか…」と職員みんな不安な気持ちでいっぱいでしたが、スタートしてみると、「毎年楽しみにしています！」というお客さまがたくさんいらっしゃって、例年のような賑わいになりました。

長い行列でテントに入れず濡れてしまった方や、足元が濡れていてご不便をおかけした方もおられました。みなさん笑顔でイベントに参加していただくことができました。



ご来館いただいたみなさま、そして、運営に携わっていただいたボランティアスタッフのみなさま、ご参加いただき本当にありがとうございました！  
(賀瀬 瑠実子)

## 新刊紹介

### 特別展図録

#### 絵葉書の中の広島

～閉じ込められた街の面影～

定価：700円（税込）

発売：2013/10/26

### 概要

明治33年以降、マスコミが発達していなかった時代の貴重なメディアとして、実に多種多様な絵葉書が日本中で作成されるようになりました。本図録では、こうした絵葉書のうち戦前の広島市内の街の様子が分かる資料を紹介し、知られざる街の歴史について解説しています。

### ●目次

はじめに

目次・凡例

戦前に発行された絵葉書とは

絵葉書の中の広島

1 繁華街

2 橋

3 軍都

4 宇品

5 さまざまな風景

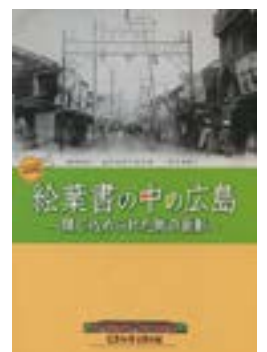
6 お祭り・イベント

7 学校

主な参考文献

展示協力者・奥付

A4判 110ページ



# 活動報告

平成25年10月～平成26年3月

## 教室事業・フィールドワーク

開催日	事業名	参加者数
10月5日(土)	張り子作り	10人
10月17日(木)	大人の社会科見学	28人
11月17日(日)	宇品のまちを歩こう	雨天のため中止
11月29日(金)	伝統技術を学ぶ	17人
12月6日(金)	水引きでお正月飾り作り	19人
12月15日(日)	羽子板作り	24人
12月21日(土)	もちつき体験	27人
1月13日(月・祝)	郷土料理作り	12人
1月25日(土)	ノリすき体験	15人
2月1日(土)	ノリすき体験	19人
2月8日(土)	バウムクーヘン作り	19人
2月9日(日)	バウムクーヘン作り	18人
2月16日(日)	江戸時代のカキ船料理体験	19人
2月22日(土)	ひな人形作り	10人
3月2日(日)	陸軍の三廠をめぐる	24人
3月15日(土)	みたらし団子作り	19人



バウムクーヘン作りの様子

## その他の事業・館外事業

開催日	内容	参加者数
10月6日(日)	植物公園グリーンフェスタで工作指導	162人
10月9日(水)	吉島公民館で講演・フィールドワーク「吉島の歴史」	14人
10月20日(日)	みなと公園でパネル展示と工作指導	461人
10月26日(土)	ボランティアフェスティバルで工作指導	294人
11月3日(日・祝)	スペシャルイベント「駄菓子作り広場」	4,464人
12月7日(土)	三入公民館で講演「忠臣蔵と広島」	27人
12月12日(木)	古市公民館で講演「城下町広島の暮らし」	72人
12月13日(金)	観音公民館で講演「広島と忠臣蔵・大石家との縁」	12人
12月22日(日)	中央図書館で講演「忠臣蔵～その物語と広島藩とのかかわり～」	73人
1月20日(月)	広島市立大学で講義「博物館資料論」	22人
2月8日(土)	二葉公民館で講演「上深川式土器が使われたころ」	36人

# 新着収蔵資料

2013年9月から2014年3月までにご寄贈いただいた資料です。  
みなさま、ありがとうございました。

資料番号	資料名	点数	氏名	受入年月日
2013-1006	金だらい	1	山縣 紀子 氏	2013.9.1
2013-1007	軽便防火ポンプ【写真①】	1	小玉 伸孝 氏	2013.11.3
2013-1008	鳴門水飴【写真②】	3	岡崎 洋之 氏	2014.1.28
2013-1009	写真 広島陸軍被服支廠 13番庫【写真③】	2	山田 勝英 氏	2014.2.19
2013-1010	写真 旧広島陸軍被服支廠 レンガ倉庫	1		
2013-1011	写真 旭町付近の蓮畑	1		
2013-1012	写真 旧広島陸軍被服支廠 レンガ倉庫	2		
2013-1013	写真 旭町付近か	1		
2013-1014	町内会組長委嘱状	1	沖村 稔秋 氏	2014.3.13
2013-1015	神楽衣装 鬼着	1	有井 健司 氏	2014.3.22
2013-1016	神楽衣装 袴	1		



【写真①】 軽便防火ポンプ



【写真②】 鳴門水飴



【写真③】 写真 広島陸軍被服支廠 13番庫

## 平成25年度を振り返って

早いもので平成25年度もまもなく終わろうとしております。

当資料館は平素から市民の皆さんのニーズにあった運営・活動に心掛けてきているところですが、今年度も、被爆前の広島の姿をとらえた絵葉書を通して、郷土広島の知られざる歴史を再発見していただくことを目的とした特別展「絵葉書の中の広島～閉じ込められた街の面影～」や、戦前、鉄道宇品線の沿線に設けられた陸軍軍需施設の歩みとそれらが郷土広島の歴史の中で果たした役割を紹介した企画展「陸軍の三廠～宇品線沿線の軍需施設～」を始めとし、「ワラのあった風景」「涼む～涼をとる道具・風習」そして小学生の皆さんに人気のある『『ごんぎつね』が語る昔の暮らし』の展示事業を実施しました。そして夏休み恒例の「おばけの夏休み」、文化の日の「駄菓子作り広場」といったイベントやバラエティに富んだ各種教室事業等を開催し、多くの市民の皆さんにご参加、ご来館いただきました。まことにありがとうございました。

また、当館としては博物館の使命ともいえる資料の収集・調査・保存についても、平素から鋭意努力してきているところですが、これからもチャレンジ精神を忘れることなく、皆様のご支援、ご協力をいただきながら積極的に各種事業を展開し、ご期待にそえる郷土資料館にしていきたいと思いますので、引き続きよろしく願いいたします。

(館長 新田 清治)

## 平成 26 年度

## 展 示 紹 介

### 企画展 ひろしま再発見

2014年4月5日(土)～2014年6月22日(日)

重要文化財「安芸福田木の宗山出土青銅器(銅鐸、銅剣、銅戈)」をはじめとする様々な出土品を紹介することを通して、郷土広島の原像に迫ります。

### 企画展 太田川の歴史

2014年7月5日(土)～2014年8月31日(日)

太田川が起こした洪水の歴史と、太田川放水路完成までの道のりをたどります。

### 夏休みイベント おばけの夏休み

2014年7月19日(土)～8月31日(日)

今年も、お化け屋敷を開催します。個性的なおばけ達の夏休みを覗いてみよう!

### 企画展『ごんぎつね』が語る昔の暮らし

2014年9月6日(土)～12月7日(日)

新美南吉の童話『ごんぎつね』に出てくる、昔の道具や人々の暮らしについて紹介します。

### 企画展 広島町新開絵図を読む

2014年10月18日(土)～2015年1月12日(月・祝)

江戸時代、干拓によって広島城下町は南に向かって拡大していきました。そのころの町の様子を知ることができる「広島町新開絵図」をとおして、当時の新開地の様子を探ります。

### 特別展 広島缶詰事はじめ

2015年1月24日(土)～4月12日(日)

戦前の広島には、いくつもの缶詰製造会社が設立され、缶詰製造業は主要産業のひとつでした。そうした缶詰業の沿革を知ること、広島近代史の一面を紹介します。

ひろしま郷土資料館だより No. 87 2014年3月31日発行

編集・発行 財団法人広島市未来都市創造財団 広島市郷土資料館

〒734-0015 広島県広島市南区宇品御幸二丁目6-20

TEL: (082) 253-6771 FAX: (082) 253-6772